

[部会の主な意見]

取組と指標の整合性 (セオリー評価)	- ロジックモデルのつながりについては、おおむね整合性があると評価する。 - データの性質上、更新頻度が少ない（3年おき）、数値がマスキングで捕捉不可等の一部指標について、指標を変更する。 - 分野アウトカムに高齢者施設での看取りの増加を目標としているが、施設看取りに関する中間アウトカム、個別施策がないため、「看取りを行う特養の数」の指標の追加を検討した方がよいのではないか。
取組の実施状況 (プロセス評価)	- 施策は概ね適切に実施されていると評価する。 - 土日祝祭日、24時間対応する調剤薬局を増やすための取組が必要 - 訪問看護STが増加している。新規訪問看護STの管理者向け研修や研修に参加しない訪問看護STへの働きかけをお願いしたい。 - 往診や看取りについては地域偏在があるため、資源が少ない地域への支援に力を入れてはどうか。
指標の進捗状況 (インパクト評価)	R4年度までは新型コロナの感染拡大の影響を考慮することが必要
今後の取組方針 (総合評価)	現在の施策を継続するが、プロセス評価での意見のあった訪問看護STへの研修、休日夜間の調剤薬局増加、代診往診派遣実証事業等について、今後の施策実施に反映させていく。また、高齢者施設での看取り対応の支援についても検討する。

[その他意見]

- データ出典の数値に疑義があるときは、評価の支障とならないよう、予め資料に注釈をつけること
- 小児在宅医療については、周産期医療部会との連携を検討